卓上四季

2025. 5. 10

原爆の強烈な爆風と熱線で、広島の街は焼き尽くされた。「75年間は草木も生えぬ」。原爆開発にかかわった米科学者の言葉が人々を打ちのめした▼いや、自然は強かった。奇跡的に生き延びた木が何本もある。アオギリやエノキ、イチョウ…。広島市は爆心地から2キロ以内で生き残った木を「被爆樹木」と定めた。現在は31種、159本。力強い生命力に市民は勇気づけられた▼この樹木の種を世界に広げ、広島の平和への願いを受け継いでほしい。そんな思いから14年前、市民団体のグリーン・レガシー・ヒロシマができた。呼びかけたのは国連機関の広島事務所長だったナスリーン・アジミさん。これまでに国内だけでなく、紛争地を含む40カ国・地域に贈り、交流も続ける▼今週、米ニューヨークの国連本部に被爆樹木の柿の苗木を植えた。種から育った「2世」。団体の活動を知った国連職員の協力で、原爆投下と国連創設の80年に合わせて実現した▼柿の木は育つのに時間がかかるが、つややかな果実は目を引く。「戦火の絶えない今だからこそ、世界平和に取り組む拠点である国連に、この木が必要なのです。命の尊さを伝える、この木が」。アジミさんは強調する▼惨禍の物言わぬ生き証人として、平和と希望の象徴として。広島の木々が世界中で実を結ぶ日を願ってやまない。